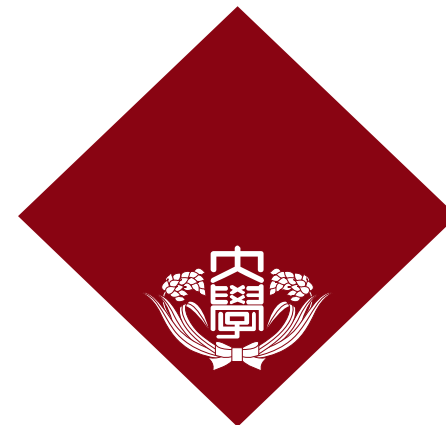




早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター/ 1F廃炉の先研究会
ふたば未来学園中学校・高等学校

1F地域塾：1F廃炉の先を考える、語りあい、学びあいの場
第1回：1F地域塾の背景と目的

松岡 俊二

早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)所長

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長

早稲田大学国際学術院・大学院アジア太平洋研究科教授

smatsu@waseda.jp

2022年7月16日

* 当日の資料配布はしませんので、あらかじめご自身で印刷するか、PCで見てください。



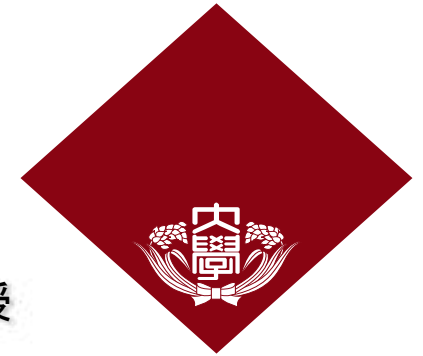
松岡 俊二

1F廃炉の先研究会代表

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長

早稲田大学国際学術院・大学院アジア太平洋研究科教授

smatsu@waseda.jp



1957年、兵庫県豊岡市生まれ

1980年から京都大学大学院で地域開発政策を学ぶ

1988年から約20年間、広島市に暮らし、広島大学で教える

2007年より、箱根の関を越えて東京・新宿に暮らし、早稲田大学で教える

2011年3月より福島原発事故研究・福島復興研究を始めて11年が経過した



2022年7月16日





2011年3月11日と3月12日

私はスリランカに滞在し、BBC国際放送TVで東日本大震災と福島原発事故を見ていた。

東京に戻り、卒業式・入学式が中止され、4月の講義も延期となるなかで、『フクシマ原発の失敗』という本を執筆した。

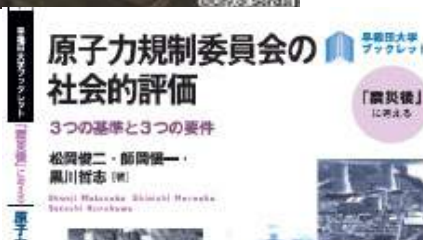
1F事故の教訓：1F廃炉や復興と廃炉の両立という本当に大切な問題を、一部の専門家や政府だけに任せていてはいけない。

フクシマ原発の失敗
「震災後」に考える
事故対応過程の検証とこれからの安全規制
松岡健二 著



021

原子力規制委員会の社会的評価
3つの基準と3つの要件
松岡健二・師岡健一・黒川哲志 著



「震災後」に考える

フクシマから日本の未来を創る
復興のための新しい9原則
松岡健二 著

松岡健二 いわき市でんと国和企業組合 代表



035

034

フクシマ原発の過酷事故の教訓を踏まえて
安全のための規制強化は必要である
松岡健二 著



2017年:早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターの設置 長期的・広域的視点から福島復興を共に考え、議論し、提案する

早大、原発被災地に研究拠点 福島・広野町で開所式

2017/5/25 16:06



共有



早稲田大学は25日、東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所事故で被災した福島県広野町に研究拠点を開設した。現地の民間企業や自治体、学校などと連携し、地域社会の復興策をさぐる。設置期間は5年間。早大を中心に約20人の研究員らが、現地を調査する際に活用する。

新拠点は「ふくしま広野未来創造リサーチセンター」で、町の展示施設「ニッ沼パークギャラリー」内に設置。早大が国内外に設置を進める地域リサーチセンターとしては4カ所目となる。

センター長に就いた早大の松岡俊二教授は同日の開所式で「（震災から）6年を経た福島の復興・再生をセンターの活動を通じて考えていきたい」と強調。広野町の遠藤智町長は「福島の復興に向けて人材育成などで大きな力になる」と期待を示した。



画像の拡大

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターの開所式で話す松岡俊二センター長（25日、福島県広野町）

2018年：ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ（SI構想）

2050年の持続可能な福島浜通り地域社会の形成の提案

社会イノベーション・イニシアティブ（SI構想）は、2050年頃を目標に、常磐炭鉱（いわき）、広野火力（広野）、2F（楢葉・富岡）、1F（大熊・双葉）、アーカイブ拠点施設（双葉）、復興祈念公園（双葉・浪江）、原町火力（南相馬）と、南から北へ続くエネルギー産業遺産・原発事故遺産・震災復興施設のネットワークを作り、1Fやエネルギー遺産群を核とした災害文化を形成することで地域の新たな魅力づくりと、国際的芸術・学術拠点を形成することで、21世紀の持続可能な浜通り地域社会の形成を構想する。

① 1F廃炉の先研究会：2019年7月

1F廃炉プロセスの地域資源化と1F廃炉の将来像の多様な選択肢の研究開発

② 国際芸術・学術拠点構想研究会（A&S研究会）：2020年4月

原子力災害の教訓の未来世代への継承、福島教訓を踏まえた文化芸術と学術研究の新たな「知の拠点」に関する研究開発

③ 創造的復興研究会：2021年7月

2050年の福島浜通り地域社会の将来像の多様な選択肢の研究開発



2019年7月29日：1F廃炉の先研究会を設置
廃炉の技術的側面と社会的側面を統合し、地域のなかの廃炉を考える



参考文献

- 1F廃炉の先研究会(2020)『1F廃炉の先研究会・中間報告』.
https://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/material/1Fstudy_InterimReport.pdf
- 松岡俊二(2021)「福島第一原子力発電所(1F)廃炉の将来像と『デブリ取り出し』を考える」『アジア太平洋討究(早稲田大学アジア太平洋研究センター)』41, pp. 89-110.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/wiapstokyu/41/0/41_89/_article/-char/ja/
- 松岡俊二(2022)「スリーマイル・アイランド原発2号機の廃炉事業と1F廃炉の将来像を考える」『アジア太平洋討究(早稲田大学アジア太平洋研究センター)』44, pp. 77-100.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/wiapstokyu/44/0/44_77/_article/-char/ja/

1F地域塾の運営体制

運営委員

塾 頭: 松岡俊二・1F廃炉の先研究会代表(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授)

副塾頭: 崎田裕子・1F廃炉の先研究会副代表(NPO 法人・持続可能な社会をつくる元気ネット・前理事長)

同 上: 森口祐一・1F廃炉の先研究会副代表(国立研究開発法人・国立環境研究所・理事)

同 上: 井上 正・1F廃炉の先研究会(電力中央研究所・名誉研究アドバイザー)

同 上: 小磯匡大・ふたば未来学園・教諭

同 上: 鈴木知洋・ふたば未来学園・教諭

GM(グループ・マネージャー)

朱 鉦(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士課程)

松川希映(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・修士課程)

田代滉介(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・修士課程)

倉重水優(早稲田大学政治経済学部・3年)

馬屋原瑠美(早稲田大学社会科学部・2年)

高垣慶太(早稲田大学社会科学部・2年)

事務局

永井祐二: 早稲田大学環境総合研究センター・研究院教授

李 洸昊: 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・講師

山田美香: 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・次席研究員(福島駐在)

グループ分け(簡略)

グループA	グループB	グループC	グループD	グループE	グループF
朱 Y	田代 K	松川 K	倉重 M	高垣 K	馬屋原 R
井出 T	高村 M	森山 H	鈴木 K	秋元 N	渡邊 T
根本 R	島村 M	新妻 T	大和田 T	片平 Y	藤城 H
成田 K	天野 O	塩塚 Y	佐藤 T	根本 K	熊田 Y
杉本 T	新井 K	鬼沢 R	中村 M	関口 M	大平 K
佐藤 S	藤原 T	四條 M	張 H	宇野 S	行木 M
紺野 I	吉田 H	遠藤 K	菅家 N	辻浦 H	松本 K
阿部 S	石上 K	鈴木 N	川崎 Y	八木 K	白土 R
加藤 A	佐藤 K	菅波 R	佐久間 N	山形 H	星野 S
中井 N	大竹 R	中島 A	齋藤 Y	磨 R	
	渡邊 M				

教室割

- A: 協働学習ルーム (朱GL)
- B: 地域協働スペース (田代GL)
- C: 選択教室2 (松川GL)
- D: 高2-4教室 (倉重GL)
- E: 高3-1教室 (高垣GL)
- F: 選択教室3 (馬屋原GL)

地域協働スペースのWiFi

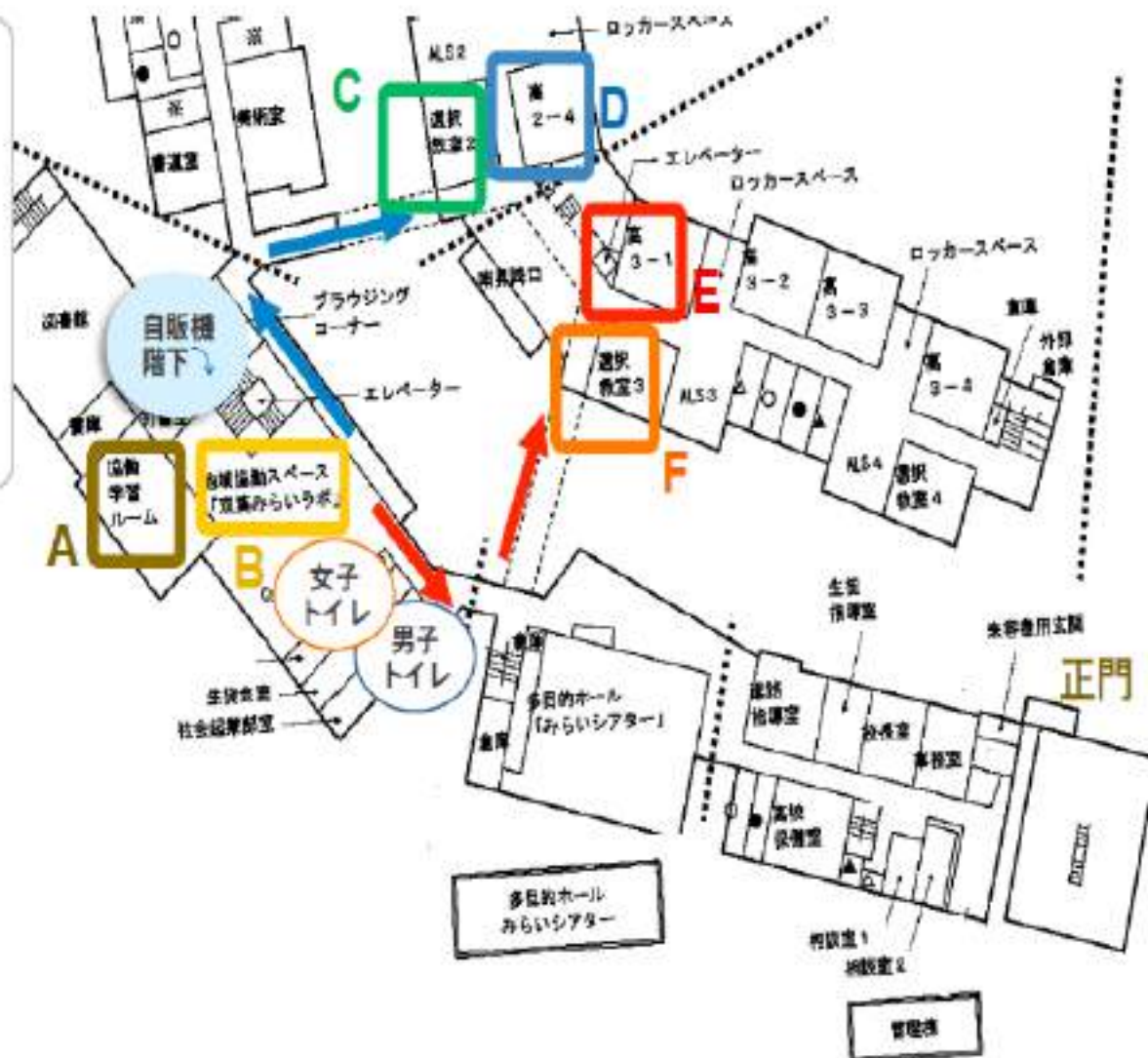
ID: MIRAILAB

PW: futabas2017

協働学習ルームのWiFi

ID: MIRAILAB-gakushu

PW: futabas2017



第1回地域塾の時間割

総合司会：小磯匡大(副塾頭)・鈴木知洋(副塾頭)

13:30-13:45: 1F地域塾の背景と目的

松岡俊二(塾頭)

(5分休憩)

13:50-15:30: 6グループの自己紹介

1F地域塾で「知りたい」・「語りたい」・「学びたい」

(20分休憩)

15:50-17:00: 総合討論(各グループ5分報告)

崎田裕子(副塾頭)・森口祐一(副塾頭)

(5分休憩)

17:05-17:15: 塾とは何か

南郷市兵(ふたば未来学園)

17:15-17:25: 学ぶとは何か

菅波香織(1F廃炉の先研究会、未来会議・事務局長)

17:25-17:30: 1F廃炉の先を考える「対話の場」＝「学びの場」づくり

松岡俊二(塾頭)

* 新型コロナ感染が再拡大しているため、懇親会は中止します。

今後の1F地域塾の予定

第2回：1F廃炉の現状と将来像を考える

2022年9月10日(土) 13:00-18:00@ふたば未来学園・Zoom

* 1F廃炉事業の現状

第3回：1F視察と「対話の場」

2022年9月17日(土) 10:10-17:50@1F、ふたば未来学園・Zoom

* 1Fの視察

第4回：地域のなかの1F廃炉と将来像を考える

2022年10月1日(土) 13:00-17:30@ふたば未来学園・Zoom

* 国や事業者の取り組み

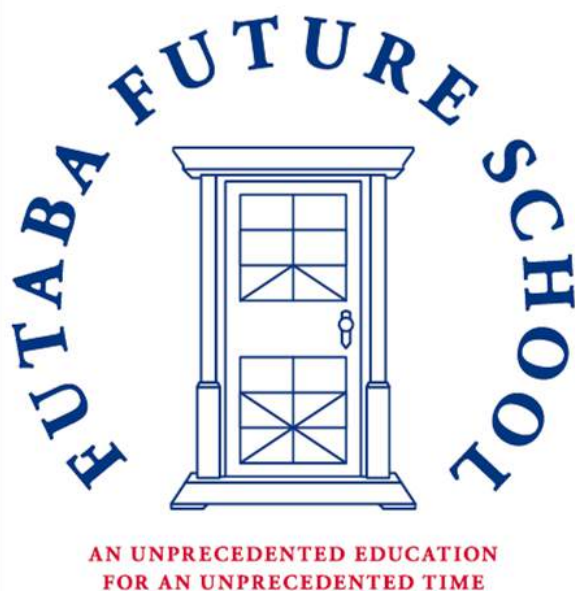
* 6グループからの1F廃炉の先の選択肢の発表と討論

1F地域塾に関するアンケート調査のお願い

- アンケート調査は、早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・1F廃炉の先研究会として、「対話の場」＝「学びの場」のあり方を検討するために、1F地域塾に参加された方々の塾に対する感想をお尋ねします。
- ご協力いただいた回答は、研究成果の発表も含む研究会活動以外に使用することはありません。
- また、本アンケート調査は早稲田大学・研究倫理規程などを遵守し、データの保管・管理を厳重にし、個人情報保護に十分に配慮します。アンケートの回答は無記名ですので、率直にご回答くださいますようお願いいたします。
- 回答には、5分程度の所要を想定しています。どうぞよろしくお願いいたします。

1F地域塾の「対話の場」＝「学びの場」のお願い

- 「対話の場」＝「学びの場」に参加する全ての参加者は、「〇〇さん」という「さん付け」で呼ぶようにお願いします。
- 自分と異なる意見であっても否定をすることなく、なぜそのような意見が主張されるのかを、相手の立場に立って理解する努力をお願いします。
- 本当に大事な問題を広く、深く考え、将来の選択肢を考えるため、多様な材料や情報を自分で学んでいくことを大切にしましょう。
- 1F地域塾を通じて、「他者の靴を履く(put on someone's shoes)」＝エンパシー能力について考えたいと思います。
- 報道関係者の取材があります。可能な範囲でご協力をお願いします。
- 新型コロナ感染が再拡大していますので、マスク着用・手洗い等も含め、安全第一の行動をお願いします。



1 F 地域塾 第1回

塾とは何か

2022年7月16日（土）

南郷市兵

福島意見立ふたば未来学園中学校・高等学校
早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター招聘研究員



写真：地域密着の旅「地旅」より
https://jitabi.ne.jp/products/detail.php?product_id=1695

「教授は能はざるも、君らと共に講究せん」(吉田松陰)

同じ土俵に上がり一緒に勉強し共に学ぶ・・・先生の座る場所が一定せず、絶えず松陰は塾生たちの間をあちこち動き回って指導していた。初めて塾に来た人には、一体誰が先生なのか、はっきりしなかったという。

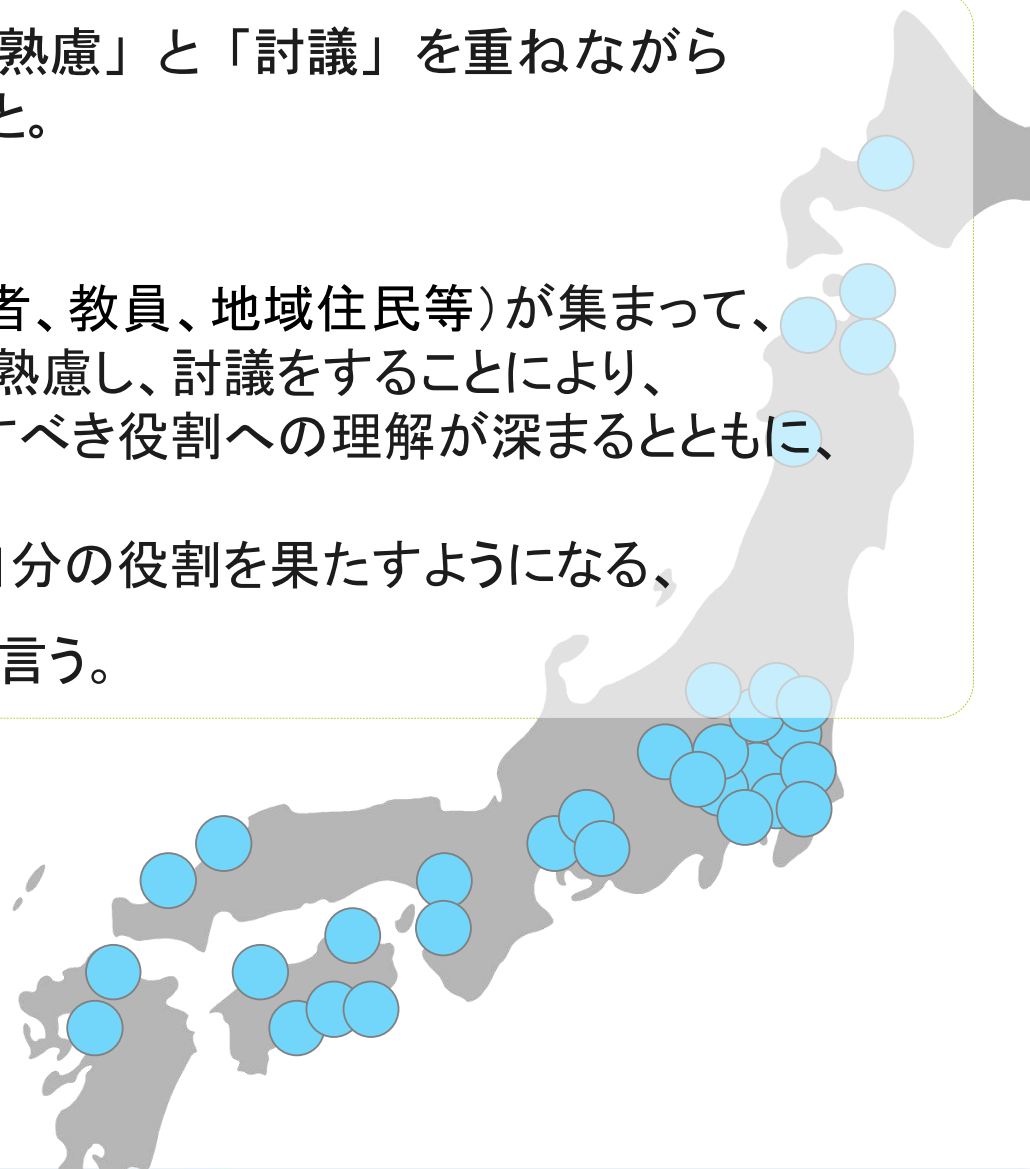
海原徹(2011)「いま求められる教師像を吉田松陰にみる」『人間会議』,2011夏,宣伝会議



多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。

政策を形成する際、

- ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
 - ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
 - ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
 - ④解決策が洗練され、
 - ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、
- というプロセスのことを言う。



フィルター・バブル、真実の相対化、 バッシング増幅の時代

- 人々は同質性の集団へと分類され、バブルの中で声は反響・増幅し、反対意見に出会わず偏向する
- 明白な事実を強調する投稿を書くのに何時間も費やす人は少ない一方、熱狂的な陰謀論者や過激派は膨大な量のコンテンツを生み出すSNSの「熱意の非対称性」(レナー・ディレスタ)



© Eli Pariser

どんなに良質な立場でも、同じ精神傾向とばかり話を繰り返していれば自家中毒になる。だから、わざわざ自分の自然的な傾向性と反対のものに、不断に触れようとする。

自分の自然の傾向性に対して、不断に抵抗していく。そうでないと、インデペンデンス・オブ・マインド、独立の精神というのは確立されない。

丸山眞男著「福沢諭吉の哲学」PP.185

若者の視点やアート力を生かしていくことで、我々は困難な宿題に立ち向かえる

VUCAな時代

Volatility 変動性
Uncertainty 不確実性
Complexity 複雑性
Ambiguity 曖昧性

専門家
(専門知)

地域
(地域知)

協働するプロジェクトによる
内発的イノベーション



アーティスト・若者(学生・中高生)

境界知の創造

専門知を補完する
ポスト・3.11の知の
創造と発信

創造的な地域の実現

ウェルビーイングを
追求する、自立し
持続可能な地域の実現

二律背反(トレードオフ)・矛盾(ジレンマ)・
葛藤(コンフリクト)をはらむ意思決定

「『知識基盤社会』において追及される『知識』は、いわゆる『真理』、つまり世界の在り方についての真なる普遍的な説明ではない」それは「新しい課題、その課題を達成する方法、それにより社会に新たに実現される価値など、創造的なアイデアなのである」

菅波 香織 いわき法律事務所 弁護士／未来会議事務局長／はまどおり大学代表

- ・福島県いわき市平生まれ。5児の母（東日本大震災時は、第5子妊娠中）
祖父が常磐炭鉱の炭鉱夫を経て鉄工場を立ち上げ、イチエフの仕事も。
- ・1998年東京大学工学部化学システム工学科卒業（燃料電池の研究）
化学メーカーでの研究員を経て、地元いわき市にて2007年に弁護士となる。
離婚や子どもの事件、DVや性被害に関する法律業務などが専門。
- ・主な公職：日弁連子どもの権利委員会委員、元福島県浜児童相談所虐待対応専門員、いわき市児童福祉専門分科会（子ども子育て会議）委員、いわき市地域包括ケア推進委員会委員、元いわき市いじめ問題対策委員会委員、NPOいわきふれあいサポート理事など
- ・東日本大震災後、様々な分断的な状況や軋轢などを乗り越えるため、対話の場作りを開始。2013年から有志で未来会議を立ち上げ、40年継続を目指す。対話のルールは、否定しないこと、本当の思いを語ること。多様性こそ豊かさとして捉えて、自分が変わることを大切に、結論を出さない対話を続けている。

・子どもとの対話の重要性も感じ、未来会議子ども分科会を立ち上げ、民間大学はまどおり大学を設立。誰もが自分らしく生きられる地域作りを目指している。

趣味：ベリーダンスとビール

・令和3年10月、水俣にて。緒方さん「事件史に応答する課題責任」「仕組みからの離脱」「罪とか責任とかいうものを共に負いたい」「存在表現」「このことによって、何を問われているか」



未来会議

はまどおり大学



みんな愛すべきでこぼこ



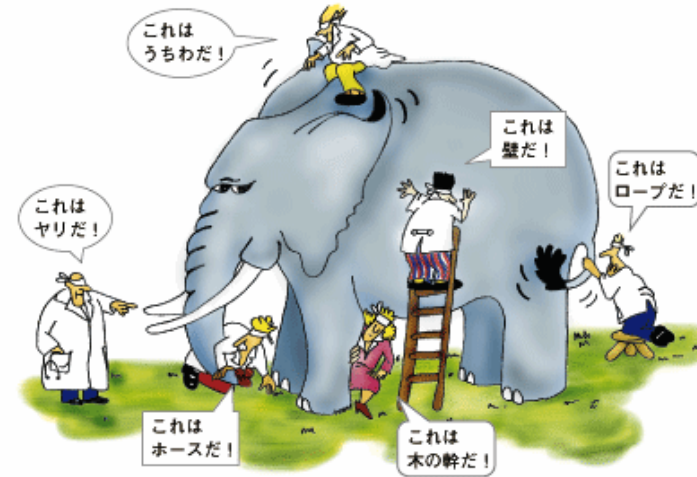
緒方正人さん「チッソは私であった」



女島無番地にて

対話から生まれる 「集合知」とは？

津屋崎ブランチ山口寛氏



- 「自分は答えの一部かもしれない」 群盲象を評す
- 人間が同じ事実を見聞きしても、考えていることが同じとは限らない
(コップに半分も水が入っている ←→ 半分しか入っていない)
- 「どちらが正しい？」ではなく、「なぜ相手はそう思うのだろうか？」
→ 違いにこそヒントがある
- 自分が正しい、と思わないこと。
- 「答えを共有しようとする」と、信頼は生まれない。

問いを共有しようとする、信頼が生まれる。」

【学びのプロセスで大事だと思うこと】

①主体性

対話は、主体性も育む。私たちはみな、主権者である。

主体的な自己決定、自立に向かう意思決定

に必要な情報などの共有の場

②変容

「対話は自分の意見を変えるためにするもの」

③信頼の醸成

対話により“Trust”を積み上げていくこと

対立軸に見える事から、

共有できる「問い」を見つけ出していく協働作業

「対話とは、他者との異なった価値観の摺り合わせだ。
そしてその摺り合わせの過程で、
自分の当初の価値観が変わっていくことを潔しとすること、
あるいはさらにその変化を喜びにさえ感じる事が
対話の基本的な態度である」

平田オリザ

「変わっていくこと、それが学ぶということ、知るということです。
自分が変わっていなかったら、何も学んでいないと思えばいい」

養老孟司

“廃炉”のことをみんなで考えること

学びのプロセスを通して、主体性が育まれることにより、”被害者“からの脱却が促される可能性

当事者性はグラデーションである
自分の無関心が、誰かを害している

「『廃炉』の話をしたのだけど、それは愛する家族の話であり、自分の人生の話であり、未来の話でした」